

「職業はマジシャンです」

（一社）きずな 理事長 こぼやし 小林 けんと 賢人



「職業はマジシャンです」
自己紹介や名刺交換の際、
この一言がどんなマジックを
するよりも1番ウケていま
した。
私が小学生の頃、年に2・
3回、アメ車に乗って我が家
に遊びに来る、胡散臭くて金
髪で怪しげなおっさんがいま
した。
そのおっさんは父親の幼馴染
で、のちに私の師匠となる、
数々のテレビにも出演してい
たプロマジシャンのステイン
グという方でした。
18歳の私が師匠と再会した

住 所: 加古川市平岡町新在家992-4
T E L: 079-426-2165
営業内容: パフォーマー派遣、高齢者支援事業



時に、「マジックバーをオープンした
んやけどスタッフが足りてないからバ
イトしに来ないか」とお誘い頂き、ス
タッフとしてマジックバーで働き始め
ました。

働く中でお客様から「お兄さんもマ
ジックしてくれないの？」と聞かれる
事が増え、その度に「出来ないです」
と答えると「な〜んやな、出来ひんの
や」というくだりが何十回もあり、そ
こまで見たいならやったるわいとい
訳のわからないスイッチが入り、決
して女の子にモテたいとか、ナンパに使
えるなどの邪心は一切なく、純粹にマ
ジックを覚え始めました。

あつという間にマジックに魅了され、
ハマって行った私。

兄弟子さんや全国各地から師匠目当
てに遊びに来るマジシャンの方々にも
可愛がって頂き、またマジックだけ
なく、休みの日は師匠と共に、サーフ
インにスノボ、車をいじったり、旅
行に行ったりなど最高に刺激的で、充
実した毎日を送っていました。

ところがマジシャンとして歩みだし
たある日、師匠が急死しました。人生
で1番泣きました。

そこから色々となりましたが、少し
ずつ力を付けていき師匠が作ったマジ
ックバーの店長になりました。

それからまた何年か経ち、務めてい
たお店も辞め、加古川に帰ってきたと
きにはマジシャンを辞めようと決心し、
朝からパチンコ屋さんに並び、パチン
コが終われば、加古川の街で飲み歩く
日々を送っていました。

飲みに行く先々で、なぜかいつもマ
ジックをしていました。そこから飲み
の席をきっかけにマジックのお仕事を
頂くようになり、たくさんの方々を知り
合いました。そしてその出会いから、い
つの間にか青年部に入会していました。
ここには書ききれないくらい色々あ
りましたが、結局辞めるどころかしつ
かりマジシャンになって今年で15年を
迎えます。

今では自身でステージに立つ事は減
りましたが、パフォーマーだけのプロ
ダクションの設立、BANBAN
ラジオのパーソナリティ、自主イベン
トなど幅広くマジック以外のお仕事も
させて頂いております。

マジックにタネと仕掛けがあるよう
に、私のマジシャン人生にはたくさん
の出会いと感謝があります。このたく
さんの出会いと感謝から、「エンター
テイメントの力でみんなを元気にする」
という私の夢が出来ました。この夢を
実現する頃には、少しは師匠に近づけ
るのかな、